

敬語ノート

敬語ノート

文法

文化庁の調査審議機関である文化審議会の国語分科会敬語小委員会が、2007年2月に「敬語の方針」という答申を出しています。それにより、これまで尊敬語・謙譲語・丁寧語の3種類だった敬語が、新しく5種類に分類されました（右図参照）。これは、かつての3つの分類を否定するのではなく、今まで混乱していた箇所をわかりやすくするため、より細かく分類するというものです。

問題

基本問題

あなたには間違いがわかるでしょうか？

- ① わかりますか？
- ② 伺ってございます
- ③ 〜で伺ってください
- ④ とんでもございません
- ⑤ ご覧になられましたか？
- ⑥ その件なら存じ上げております

～Column～

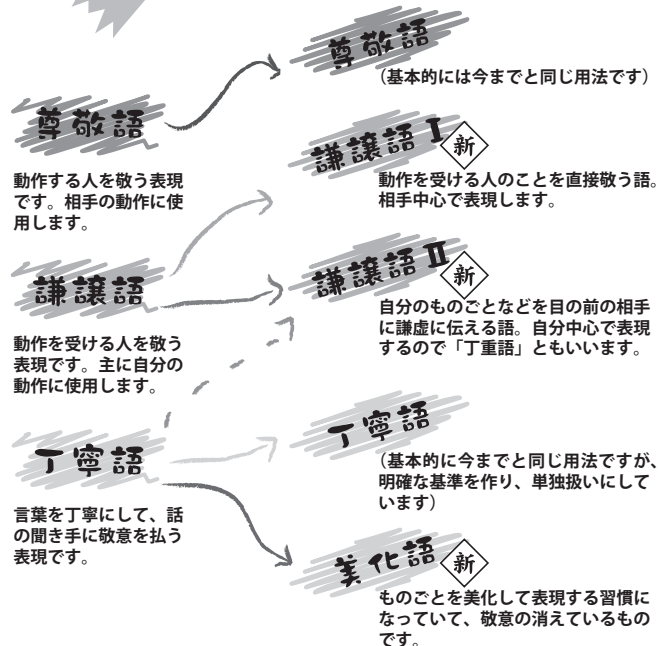
敬語表現を使うとはどういうことなのでしょう？

言葉も人も時代を通して移り変わっていくものです。価値観の変遷に柔軟に対応するには、文法的な正誤にこだわらず、相手に気持ちを伝えることを念頭に置いて敬語を使用すべきです。

つまり、敬語は「相手への思いやり」ということですね。

人と人が結びつき、理解し合い、お互いの人生を充実したものにするには、言葉は欠かせません。意思の疎通は言葉を通じて行われるからです。

皆さん、今回は「敬語」特集です。「紙1枚じゃノートじゃないよっ！」などと揚げ足を取らずに、参考にしてもらえると嬉しいです。（水無月）



実践問題

次の会話には、敬語表現の誤りが数カ所あります。全てわかったあなたはすごい！

野球部の次期キャプテンに選出された末吉（すえきち）くん。日課の自主練習を終えた先輩に何やら話しかけているようですが……。

先輩：ああ、疲れた疲れた。

末吉：ご苦労様です、先輩！

先輩：君か。次期キャプテンとしての君の働きには期待しているよ。

末吉：僕では役不足ですが、精一杯頑張りたいと思います。

先輩：ははは。君には今度、旨いもんでも食わせてやらんとな。

末吉：ありがとうございます。

先輩：今週末にでも行くか？

末吉：ぜひ！ 土曜日と日曜日どちらにいたしますか？

先輩：じゃあ土曜日にしよう。僕の車で行こうか。

末吉：あれ？ 先輩、車は持っていないとおっしゃられていたじゃないですか。

先輩：ああ、それは俺の愛車が君のゲロ……ゲフンッゲフンッ！

……いや、最近買ってね。

末吉：……。

基本問題解答

1

たしかに「れる（られる）」は、敬語を作るキーワードです。これをつければ、大抵の言葉は敬語になります。しかし、言葉には相性というものがあります。この場合正しくは、「**おわかりになりますか？**」「**おわかりでしょうか？**」となります。「わかる」だけでなく、他にも「聞ける」「見える」「書ける」「読める」なども「れる（られる）」との相性が悪い言葉です。

2

もともとの意味は「聞いている」ということですね。「聞いている」の丁寧語は「伺っている」です。問題では、「いる」を「ございます」と置き換えています。しかし、「ございます」は「ある」の丁寧な言い方であり「いる」のそれではありません。よって、「**伺っております**」と言った方が敬語としては自然なのです。

3

この表現では相手にとても失礼です。「伺う」は相手に敬意を示す尊敬語ではなく、動作主がへりくだる謙譲語だからです。「**～でお尋ねになってください**」「**～でお聞きください**」が正しい表現です。尊敬語を使うべきところで、謙譲語を使ってしまうことは少なくありません。普段からの注意が必要です。

4

「とんでもございません」を「とんでもない」の丁寧な言い方と思いきっているため起こる間違いです。残念ながら、「とんでもない」は「とんでも」を「ない」で否定しているわけではなく、「とんでもない」で1つの形容詞となっています。つまり、「ない」だけを切り離して、「**ごさいません**」と言い替えることは出来ないわけです。「とんでもない」を丁寧に表現するには、「**とんでもないことでございます**」と言わなくてははいけません。

5

典型的な二重敬語の例です。「ご～なる」と「れる（られる）」の二つの敬語用法が使われているので、この表現は間違いだということになります。正しくは、「**ご覧になりましたか？**」「**見られましたか？**」となります。しかし近年では、二重敬語に違和感を持つ人が少なくなってきたため、これを良しとする考えが広まっています。とはいえ、二重敬語は可能な限り使わない方が無難でしょう。

6

「知る」の謙譲語には「存じる」「存じ上げる」の2種類があります。「存じる」はどんな場面でも使えるのに対して、「存じ上げる」は「話題の人を知っている」という意味でしか使えません。したがって、問題のように物事を知っていると言う意味に「存じ上げる」を使うと間違いになるわけです。「**その件なら存じております**」と表現しなくてはなりません。ちなみに、「存じる」がどんな場面でも使えるとはいえ、人物に使用するのは「存じ上げる」の方が良いと覚えておきましょう。

実践問題解答

末吉くんの代わりに大吉（だいきち）くんが手本を示してくれました。

先輩：ああ、疲れた疲れた。

大吉：**お疲れ様です、先輩！**

先輩：君か。次期キャプテンとしての君の働きには、期待しているよ。

大吉：僕は**力不足**ですが、精一杯頑張りたいと思います。

先輩：ははは。君には今度、旨いもんでも食わせてやらんとな。

大吉：ありがとうございます。

先輩：今週末にでも行くか？

大吉：ぜひ！ **土曜日と日曜日どちらになさいますか？**

先輩：じゃあ土曜日にしよう。僕の手で行こうか。

大吉：あれ？ 先輩、車は持っていないと**おっしゃって**いたじゃないですか。

先輩：ああ、最近買ったんだよ。君にもぜひ乗ってもらいたいのだ。

大吉：ありがとうございます！



「**ご苦労様です**」はNG！

「ご苦労様」は目上の人が目下の人に対して使用する労いの言葉です。この場合は「お疲れ様」が相応しいです。



「**役不足**」は傲慢でしかない！

「役不足」は与えられた仕事や、自分の能力に対して低いと感じるときに使用する言葉です。このケースでの使用は先輩に対して大変失礼です。



尊敬語？ 謙譲語？

間違えやすいのですが、「いたす」は謙譲表現です。尊敬表現の「なさる」を使いましょう。



二重敬語に要注意！

普段、何げなく使ってしまうがちな二重敬語の例です。「おっしゃる」と「れる（られる）」の2つの敬語表現が使われています。